



2013年(平成25年)

6月号(No. 817)

公益社団法人

日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>e-mail ● jac-room@jac.or.jp

ロングトレイル・ウォークのススメ

節田重節

ロングトレイルというとアメリカ輸入の概念といわれるが、お遍路や山旅など山岳地域を歩くことに親しんできた日本人古来の性質を考えると、我々にも馴染みやすいように思われる。ここに、日本でもロングトレイルが広まりつつある核があるのだろうか。

最近、「ロングトレイル」という言葉をよく目にする。特に昨年の11月、『日経トレンディ』12月号が2013年に注目されるものとして第1位に取り上げたのが、このロングトレイルである。その影響は大きく、アウトドア雑誌『BE-PALE』6月号でも大特集で現状を紹介している。

「ロングトレイル・ウォーク」とは、豊かな自然の中を地域の歴史や文化に触れながら、自らの脚で宿泊を伴って体験する「歩く旅」と

いえるだろうか。そもそも日本は、お伊勢参りや四国八十八ヶ所お遍路など、ロングトレイルの先進国。また、近代登山の草創期には、尖鋭的なアルピニズムの対極として山や峠を越えて山里を結ぶ、静観的な「山旅」という言葉があった。雪よ岩よ、は年齢的にもう無理、ピークハントも飽きた、でも、やはり山や自然の中に浸っていたいという方々は、ぜひともこのロングトレイル・ウォークに注目していただきたいもの。

目次

ロングトレイル・ウォークのススメ	1
日本山岳会の図書室について—山と本の関係から—	4
キャシャール南ピラー初登攀の日本隊が「第21回ピオレドール」を受賞	5
立山・松尾峠遭難90年祭について	6
追悼 羽田栄治さんを偲ぶ	7
東西南北	8
旅先で出会った古書 ブナの美しい山—越後の川内山塊と著名連山 私の1000山	
支部だより	10
北海道支部／北九州支部	
図書紹介	12
会務報告	14
ルーム日誌	15
会員異動	15
新入会員	16
INFORMATION	17
図書受入報告	18
日本山岳会蔵資料紹介 No.3	19

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木……………10～20時
水・金……………13～20時
第2、第4土曜日……………閉室
第1、第3、第5土曜日……………10～18時
夏季休室……………8月10日～18日

米国のトレイルは4000キロメートルも
ロングトレイルは近年、米国から移入されてきた思想だが、本場の事情を見てみよう。東部のアラチアン山脈沿いに14州にまたがって続くのがアパラチアン・トレイル(3500キロメートル)。日本におけるロングトレイル文化の提唱者で、作家・バックパッカーの故加藤則芳さんも踏破されている。

いつぼう西部のシエラ・ネバダやカスケード山脈をつないで、カナダからメキシコ国境まで歩くのがパシフィック・クレスト・トレイル(4000キロメートル以上)。その一部を成し、ヨセミテ国立公園を中心としたハイライト部分が、「アメリカの自然保護の父」の名を冠したジョン・ミューア・トレイルで、340キロメートルのコースはバック



英国のフットパスの標識。至って簡素なもの

バックカーの人気を呼んでいる。では、散歩が大好きな英国ではどうだろうか。英国には産業革命以降、永い年月をかけて築き上げてきた「通行権(Rights of Way)」というものが、国有地・私有地の別なく、地権者が存在する土地を公衆が通行する権利が認めら

れている。それら通行権のある歩道は「フットパス」と呼ばれ、イングランドとウェールズを合せて（スコットランドを除く）22・5万^{キロメートル}もある。それらは散歩程度から2〜3週間を要する長距離フットパスもあり、最も古いペナイン・ウェイは16日間ぐらいのコースで、年間約25万人が利用している。

人口の2〜3割の人々が歩いているといわれる英国だけに、フットパスによる経済効果は絶大で、イングランドで年間約8000億円、ウェールズで約715億円、スコットランドで約3600億円といわれている。

東海自然歩道から信越トレイルへ

日本のロングトレイルの元祖は東海自然歩道であろう。米国のアパラチアン・トレイルをヒントに1970（昭和45）年から整備をはじめ、1974年に完成したが、官製歩道のためか人気は定着せず、整備も行き届かず忘れられていった。その後も長距離自然歩道の開設が全国で展開されたが、東海以上に人気がなく、廃れていつている。

荒廃の原因は、利用者目線でコース設定や整備を考えなかったか

らだろうと考える。人が歩くから道ができるので、歩いてくれることが最も効果的な整備方法である。

そのような歴史を経て2008年に全線開通したのが信越トレイルである。故加藤則芳さんのコンセプトに沿って新たに開削された80^{キロメートル}のトレイルで、長野・新潟県境にまたがる関田山脈を縦走するコースは地味だが自然が豊かで、年間約3〜4万人（クラブで把握している数字）の人々が利用し、人氣が定着している。

その人氣の秘密はどこにあるのだろうか。1980年前後から起こった「中高年登山ブーム」や「日本百名山ブーム」は社会現象として定着し、その裾野が広がるとともに自然指向や健康指向が加わって、トレッキングやウォーキングなど「歩く旅」が人気を呼んでいるのが近年の状況。旧来の名所旧跡巡りの定番観光から、はつきりした目的を持った滞在型、体験型の観光にシフトしているのである。また「歩く」というプリミティブな行動は、物がよく見え、よく感じられ、よく味わえるスピードで、そこにコミュニケーションがあり、癒しがあるのも、より旅の充実度を増している。

を増している。

さらに、ロングトレイル・ウォークは県や市町村をまたいで展開し、滞在もする。そのため食糧購入や宿泊、ガイド需要など、地域経済の活性化に寄与すること大である。特に近年、観光における広域連合が叫ばれているが、ロングトレイルはその最も具体的なプロジェクトではなかるうか。

ロングトレイル10団体の紹介

2011年7月、JAC会員である中村達（協議会代表委員、会員番号・14239）や岡島成行（同副会長・8631）、私（同会長・6720）が中心となって、観光庁や文部科学省、環境省、林野庁など関係省庁立ち合いの下、「日本ロングトレイル協議会」を立ち上げた。当初は信越トレイルをはじめ5団体だったが、現在は10団体となっている。

活動目的は、ロングトレイルという文化を広め、地域観光の活性化に寄与すること。また、トレイルを通じて野外・環境教育の普及に努めること。さらに各地のトレイル間の連携や交流を強め、全国的な整備や利用促進に取り組む。

そのためにシンポジウムやフォーラムを開催し、それぞれの活動をPRしていきたいと考えている。

では、加盟10団体を紹介しよう。興味のある方は、協議会事務局（〒520-1655 高島市今津町日置前3331 ^{TEL & FAX} 0740-2216959 ^{E-MAIL} : la@outdoor-id.jp）か、各トレイル事務局にアクセスしていただきたい。

●北根室ランチウェイ

北海道・道東の中標津空港付近から歩きはじめて3泊4日で完歩できる約70^{キロメートル}。「ランチ」とは大牧場のことで、根釧平野の大規模牧場地帯を抜けて摩周湖に至るトレイルは、日本離れた風景。北根室ランチウェイ事務局が運営。

●とかちロングトレイル

道東の然別湖から広大な十勝平野の牧場地帯を歩く約200^{キロメートル}。毎年秋に100^{キロメートル}の「とかちロングトレイル・クラシック」（3泊4日）を開催。とかちロングトレイル推進協議会が運営。

●信越トレイル

長野・新潟両県にまたがり、9

市町村に及ぶ約80^{キロメートル}のトレイル。昨年、テントサイトが整備され、若者の利用が増えるものと思われる。交通や宿泊など、地元の観光活性化に寄与している。信越トレイル・クラブが運営。

●塩の道トレイル

日本海に面する新潟県・糸魚川市から長野県の安曇野を経て松本市に至る歴史街道。「千国街道」とも呼ばれる。昨年、全線開通し、今年から一般利用が開始されている。全長約120^{キロメートル}。長野県・小谷村商工会と新潟県・糸魚川市商工会が運営。

●八ヶ岳山麓スーパートレイル



シラカバ林のなかを行く信越トレイル

長野・山梨の両県にまたがり、12市町村を結ぶ約200^{キロメートル}のロングトレイル。八ヶ岳連峰を一周するもので、平均標高で約1500^{メートル}ラインを歩く。首都圏に近いので、利用が増えるものと思われる。八ヶ岳スーパートレイル・クラブが運営。

●美ヶ原・霧ヶ峰 中央分水嶺トレイル

長野県・長和町の町境を周回する約40^{キロメートル}のトレイル。昨年開通したもので、八ヶ岳スーパートレイルや松本市が運営する美ヶ原高原ロングトレイルとジョイントしている。長和町観光協会が運営。

●浅間―八ヶ岳ジョイントトレイル

長野県・小諸市にある安藤百福センター(チキン・ラーメンの発明者、安藤百福氏を記念して開設された自然体験活動指導者養成センター)のある御牧ヶ原を中心に、浅間ロングトレイル(懐古園)と八ヶ岳スーパートレイル(春日温泉)を結ぶ約40^{キロメートル}のトレイル。雄大な浅間山や八ヶ岳の展望と、懐古園や中山道・望月宿の歴史が楽しめる。安藤百福センターが運営。



中央分水嶺上を縦走する高島トレイル

●浅間ロングトレイル

群馬・長野両県にまたがり、6市町村を結んで浅間山を一周する約200^{キロメートル}のコース。毎夏の企画として小諸市・懐古園から車坂峠を越えて鹿沢温泉に降りる「スタートクロスウォーキング」などを実施(1年ごとに逆コース)。浅間山麓国際自然学校が運営。

●中央分水嶺 高島トレイル

東に琵琶湖、西に若狭湾を振り分けにして、滋賀県・高島市の市境に沿って歩くトレイル。古代三関の一つ、愛発越(あいちごえ)から京都府境の三国岳に至る約80^{キロメートル}で、年間約5万人以上が利用。土地の食材を

活かしたトレイル弁当が人気。高島トレイル・クラブが運営。

●国東半島峯道ロングトレイル

九州初のロングトレイル。修験道による六郷満山(国東半島一帯にある寺院の総称)の峯入り行の道をベースにしたトレイルで、宇佐市の宇佐神宮から豊後高田市の国宝・熊野磨崖仏を経て国東市の両子寺(たごじ)に至る約150^{キロメートル}のコース。今秋から公開予定。国東半島峯道トレイル・クラブが運営。

みちのく潮風トレイル誕生

環境省では、東日本大震災からの復興のシンボルとして「三陸復興国立公園」の創設と「みちのく潮風トレイル」の整備を進めている。

このトレイルは、青森県・八戸市の蕪島から福島県・相馬市の松川浦までの約700^{キロメートル}というロングトレイルで、現在、各地で意見交換会などを開き、ルートを検討中である。ほぼ半分は既存ルートを活用するもので、今秋には約100^{キロメートル}ほどを部分開通、最終的には2015年度末までに全線開通する予定という。期待したい。

〈写真提供 中村達会員〉

日本山岳会の図書室について —山と本の関係から

三好まき子

長い間、図書委員会と図書管理委員会の2つの委員会があることで、内外の皆さんの混乱を招きご迷惑をかけてきたが、今年の4月より両委員会が合併し、新しい図書委員会として再スタートの運びとなった。また、日本山岳会が公益法人となったこともあり、これからの図書室について私見を述べてみたい。

山と本の関係

まず歴史を遡ってみよう。

時は百年以上も前の1905年、山に魅せられた小島烏水らはウェストンの勧めもあって、本邦初の山岳会を創る。名称は現在の「日本山岳会」ではない。ただの「山岳会」である。日本で初めて、唯一だから「山岳会」でよかったわけだ。

そして、その翌年(翌年といつても半年後)には機関誌『山岳』を刊行する。それも年に3巻というハイペースだ。それはなぜか。若い烏水らの「登山の報告を発表したい」という熱い思いがあったからだ。

登山という行為は基本的には自己申告制であり、その報告をしなれば登ったという証明にならないという特殊性がある。烏水らがすぐに『山岳』を出したのは、そのこととも無関係ではない。報告を発表しなければ、登ったことすら誰にも知ってもらえない。その場がないから、自分たちの手で作ったのが「山岳」だ。「登山」と「報告」は、そのスタート時から密接に結びついていたと言える。

その後、『山岳』の年間3巻の刊行は、第29年(1934年)まで続き、精力的に国内の山々が登られ報告が発表される。またその間の1930年には、会報「山」や雑誌『山と溪谷』の刊行がスタートし、雑誌だけではなくさまざまな本も、前後して相次いで出版される。そして「報告」に比重を置いていた山の本の世界は、時とともに深い「思索性」を伴い、「文学性」をも色濃くにじませながら現在に至っている。登山という行為は、本という形をとることで伝えられ、広まり、

充実してきたのだ。

そう考えると、日本の登山のスタート時から併走してきたともいえる日本山岳会の『山岳』をはじめとする蔵書や、資料、絵画が、他に二つとない貴重な財産であるということを理解してもらえらるだろう。それらは、単なる日本山岳会という一山岳会だけではなく、日本の山岳界全体の貴重な財産であり、私たちはその保管の義務を負っているといえる。

これからの図書室

先日、図書委員会では区立日比谷図書文化館の図書部門責任者を囲んで勉強会を開催し、「専門図書館」という方向を示唆された。「専門図書館」とは民間企業・各種団体・官庁・大学などが設置している、蔵書を特定分野に特化した図書館である。JACの図書室も、登山の本に特化した専門図書館を目指しては、との示唆であった。

しかし、登山の専門図書館を目指すためには、現在の貴重な蔵書を散逸させることなく保管・保全するとともに、さらに蔵書を充実させ、内外に「山の本のことならJAC」と言われるようになること

が必要である。蔵書が二つとない貴重なものであるということは、それを新たな武器として有効活用できるということでもある。活用の方法によっては、蔵書の保管にかかる費用などを捻出できるかもしれないし、図書室の利用を目的とする入会者も増えるかもしれない。その具体的な活用法については、これから会員の皆さんの意見を聞きながら探っていきたいと思っている。

最後に、個人的なことだがネット上で谷文晁について調べたところ、西暦での2つの没年の情報があつて困ったことがあつた。孫引きが繰り返されるのか、誤った情報の落とし穴である。結局、答えはすぐそばにあった。図書委員会の大先輩の山崎安治著『登山史の周辺』(茗溪堂)などの本からたどることができた。

古い登山についての記録も、元をたどればほとんどが『山岳』に行き着く。私たちは身近にオリジナルを持っている贅沢さを再認識したいもの。

キヤシヤール南ピラー初登攀の日本隊が「第21回ピオレドール」を受賞

理事 萩原浩司

2013年4月3日から5日にかけて、フランスのシャモニとイタリアのクールマイユールで、ピオレドールの審査会と授賞式が開催された。

ピオレドールとは、フランス語で「金のピッケル」の意味。前年度の優れたアルパイン・クライミングに対して贈られる賞のことで、「クライミング界のアカデミー賞」などと称されることもある。

今年もまた、世界各地で繰り広げられた数十ものクライミング記録のなかから最終選考にふさわしい登山隊6隊が選ばれ、シャモニに招かれた。ノミネートされたクライマー（ノミニー）たちは、審査前日までクライミングや山岳スキーを楽しみ、親睦を深めた。ここではお互いに情報交換を行ない、それがきっかけで次の計画が生まれたこともある。その点で、親睦山行は審査会以上に有意義なプログラムであると言えるかもしれない。

そして審査当日、それぞれの登山隊はスライドを使い、審査委員（ジュリー）を前に詳しい報告を行った。

ジュリーは審査の偏りを避けるために、毎年、新しいメンバーが選ばれる。今年は英国のステイヴン・ヴェナブルズを審査委員長に、スロヴェニアのシルヴォ・カロ、ドイツのゲアリンテ・カルテンブルンナー、そして日本の横山勝丘の4人が担当した。これまではアルピニスト4人にジャーナリスト2人が加わり、計6人での審査が通例であったが、今年はアルピニスト4人のみによつて審査がなされたことになる。

そして審査の結果を受け、セレモニー会場で発表された受賞者は「ノミネートされた6隊すべて」であった。受賞した登山隊とメンバーは以下のとおりである。

■ネパール／キヤシヤール（6770^{メートル}）南ピラー初登攀Ⅱ花谷泰広、馬目弘仁、青木達哉（日本）

■カラコルム／ムスターグ・タウィ（7284^{メートル}）北東壁初登攀Ⅱディミトリ・ゴロワチェンコ、アレクサンドル・ランゲ、セルゲイ・ニロフ（ロシア）

■カラコルム／バインターブラック（別称・オーガ、7285^{メートル}）南壁初登攀Ⅱヘイドウン・ケネディ、カイル・デンプスター（アメリカ）

■カラコルム／ナンガ・パルバット（8125^{メートル}）マゼノ・リッジ完全縦走Ⅱサンディ・アラン、リック・アレン（英国）

■インド／カメット（7756^{メートル}）南西壁初登攀Ⅱセバスチャン・ボアン、ディディエ・ジュルダン、セバスチャン・モアッティ、セバス



受賞を喜び合うクライマーたち

チャン・ラテル（フランス）

■インド／シヴァ（6142^{メートル}）北東ピラー初登攀Ⅱミック・ファウラー、ポール・ラムズデン（英国）

「全6隊が受賞」となった背景には、いずれの隊も未登のラインから山頂に立ち（マゼノ・リッジは未登ではないが完全縦走として初）、そして別のラインを下降（バインターブラックを除く）したことが挙げられる。さらに、登攀スタイル、山のスケール、ルートの難易度、標高など、個別に比較して評価することはできないが、すべてのクライミングの内容が高いレベルであり、いずれも受賞に値する、と判断した結果とのことだった。

キヤシヤール南ピラー初登攀でノミネートされていた花谷泰広馬目弘仁、青木達哉はピオレドール初受賞。これで日本人は2008年のカランカ北壁（二村文隆、佐藤裕介、天野和明）、同年のカメット南東壁（平出和也、谷口けい）、2010年のローガン南壁（横山勝丘、岡田康）に続き4隊目、計10人が受賞したことになる。

ちなみに生涯功労賞（ワルター・ボナッティ賞）は、クルト・デームベルガーが受賞した。

立山・松尾峠遭難90年祭について

芳賀孝郎

大正10年(1921年)、ヒマラヤでは英国の第1回エヴェレスト登山が開始された。アルプスでは、横有恒がアイガー・東山稜の初登攀に成功した。日本では松方三郎らが積雪期の燕岳に初登頂した。板倉勝宣らは、ムイネシリ山その他札幌近郊の山々のスキー登山に初めて成功した。レルヒ少佐によるスキー伝授から10年目のことであった。

横有恒が帰国し、欧州の近代登山技術の講習を行なった翌年、大正12年(1923年)1月17日、立山・松尾峠で横有恒、三田幸夫、板倉勝宣らは猛吹雪に遭い、遭難した。板倉は横に抱かれて亡くなった。この年2月、第1回全日本スキー選手権大会が開催された。

今年は松尾峠遭難90年を迎え、記念事業としての講演会が、この4月6日、立山町芦峯寺のふるさと交流館で行なわれた。学習院山桜会が主催し、芦峯寺総代有志、立山ガイド協会、日本山岳会富山支部が共催した。

講演は、「大正期の立山案内人

群像―松尾峠遭難を巡る」五十嶋

一晃、「草創期の学習院山岳部」錦織英夫、「立山の積雪と氷河」飯田肇、と題してそれぞれ行なわれた。会場には、横、三田の関係者と板倉恭子氏および日本山岳会富山支部、石川支部、福井支部、栃木支部並びに慶応・北大・学習院の関係者、日大・明治・法政の有志、地元関係など、150名を超える人たちが出席した。

講演会後には、芦峯寺佐伯総代ほか地元の人たちと山岳会関係者との懇親会が行なわれた。

翌7日には、板倉勝宣遭難の碑の前で90年祭が行なわれた。風雨のなか、風土記の丘に建つ碑前に献花し、黙祷を行なった。7年前、この碑の前に由来記を立てた。由来記は下記の通りである。

この碑の由来について

板倉勝宣は大正12年1月17日、立山弥陀ヶ原の松尾峠において遭難した。享年26。旧制学習院中等科・高等科時代より山登りをはじめ、北海道大学を卒業し、京都大

学大学院進学を目前にして雪の立山に短い人生をとじた。行を共にした横有恒、三田幸夫らと共に、わが国近代登山の黎明期の先駆者として、自らが唱えた積雪期スキー登山の途上での事故であった。

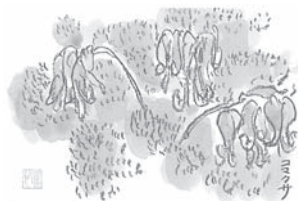
この碑は、板倉の死によって失われたものの大きさを惜しむ関係者と佐伯静氏ほかの芦峯衆によって大正14年11月に建立されたが、今般、老朽化により補修を加えた。碑文は旧備中松山藩士、莊田要二郎氏の起草になる。登山者としての可能性はもちろん、人間としてありあまる才能を秘めたまま早世した板倉勝宣の存在を、とこしえに留めようとする願いである。

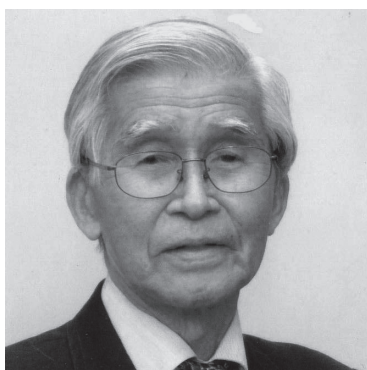
平成18年(2006年)10月に、次の4団体の合意の上で由来記を立てた。

学習院輔仁会山岳部・山桜会
慶応義塾体育会山岳部・登高会
北海道大学山岳部・山の会
芦峯寺関係者



松尾峠遭難90年祭 碑前の集合写真:富山新聞社提供





羽田栄治 (はねだ・えいじ)

1927年9月 東京に生まれる
1951年 中央大学法学部卒業、同大学山岳部OB
1954年 中日映画社入社、ニュース映画カメラマンとして活躍
1960年 中日新聞社出向、報道特派員としてヒマラヤ遠征報道、ニュース映画・山岳記録映画、山岳遭難映像取材などで活躍
1963年 日本山岳会入会(会員番号5548)
1981年～ フリー映像制作プロデューサー・映画カメラマン
1977～2007年 日本山岳写真協会副会長
2008年 日本山岳写真協会会長就任
2003～2009年 日本山岳会資料映像委員会委員長を務める
2009～2012年 日本山岳会評議員を務める
2013年4月5日 逝去。享年85

文部省登山研修所の教材映画「岩登り技術」や記録映画「未踏の氷壁」。「東京オリンピック」、「札幌冬季オリンピック」など公式記録映画制作に参加。後に制作ディレクター・チーフプロデューサー。日本映画テレビ技術協会会長、映画テレビ技術賞審査委員、日本山岳会フィルム・ビデオ委員会委員長、同アルパインフォトビデオクラブ設立及び代表、日本山岳会協会理事、日本山岳文化学会理事などを歴任。映像作品に「交響詩立山」、「南アルプス」、「奥秩父」、「富士山」など受賞作品。著書に「山岳映像」、「ロッククライミング」(共著)、「立山・剣」(共著)。その他、山岳雑誌などへの写真・記事寄稿多数。

羽田栄治さんを偲ぶ

資料映像委員会有志

4月5日、羽田栄治さんの訃報にふれた。資料映像委員会の委員長を7年間務め、山岳文化を大切にしてきた羽田さんと活動を共にしてきた私たちは、それぞれの想いをここに綴り、偲ぶ。

100周年冊子制作とパネル展示

100周年記念事業として『写真で見る日本山岳会の100年』の冊子制作と、晩餐会でのパネル

追

OBITUARY

悼



展示に尽力された。晩餐会当日は、皇太子殿下へのパネルの説明役を羽田さんが担当したが、殿下のご興味をひき、時間超過で晩餐会のお開きが遅くなるというハプニングもあった。冊子は海外来賓からも評判が良く、出来栄えに満足していた。映像一筋、職人肌の仕事人間だった。(荒井真二)

気持ちを通じる良き先輩

1959年からの長い付き合い合いだった。中日映画社にいたころ、劇場映画館でのニュース映画のカメラ

ランとして活躍。大きくて重い35mmのアリフレックス撮影機を担ぐ羽田さんと、取材現場でよくお会いしたものだ。資料映像委員会活動には熱心で、山岳会に来るのに定期を購入していた。気持ちが通じる仲の良い先輩だった。

(近藤隆治)

懐かしき撮影旅行

1996年6月、ドロミテ・チロル地方に羽田さんほか仲間と撮影旅行に約2週間出かけた。羽田さんとの長旅は初めてだったが、年齢が近いこともあり同室だった。撮影移動・ホテルと何から何まで一緒に行動した。撮影中はずっと撮影後の処理や整理など、経験豊かなやさしいアドバイスを受け、有意義で楽しい旅だった。

(川嶋新太郎)

大黒柱だった羽田さん

山岳映像の世界で、八面六臂の活躍をされた羽田さんは、最後まで資料映像委員会の大黒柱的存在でした。直前まで、資料管理について電話で元気に会話した余韻が残っています。(溝口洋三)

所蔵資料紹介、始まりました

18年前の岩手山撮影会が浮かびます。頂上で雷雲が発生、67歳の

羽田さんはパワー全開、40歳の私を追い抜きものすごいスピードで駆け下りていった……。羽田さんが楽しみにしていた会報「山」の企画・連載「所蔵資料紹介」が、4月号よりスタートしました。見ていただけなくて残念です。

(奈良千佐子)

資料のデータ化を推進

ご高齢にもかかわらず、映像情報の電子化にも研究心旺盛だった。資料のデータベースを、会報とHPで掲載開始。銀塩映像からデジタル映像への移行が終わりに近づいたタイミングに亡くなられたことに、不思議な因縁を感じる。

(多田真弘)

いただいた写真は宝物

羽田さんからいただいた写真パネルがある。K2の写真で、御自身が撮ったものだ。資料室の整理をしているときにいただいた。もう5、6年前の話だ。裏にサインをもらった。「おれが死んだら、この写真を見て、おれのことを思い出してくれよ」と言って渡してくれた。拙宅の居間に飾った。今後もずっとこの場所に飾り、羽田さんの笑顔を思い出そう。

(齋藤知茂)

N — 東 西 南 北 — S

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします)

旅先で出会った古書

夏原寿一

その本は『The Hannes Schneider Ski Technique』。1938年、米国で出版された英文の初版本である。著者はBenno Rybizka。シュナイダー・スキースクールの副校長をしていた彼は、1936年、招かれて米国に渡り、スキースクールを作るなどスキー界の発展に尽力、1991年に米国スキー・スノーボード殿堂入りをしている。

シュナイダーは本書の序文に「彼は、私のスキートニックを著すには最適の人物である。」と記し、著者に全幅の信頼を寄せている。一方著者は、オーストリア人であるシュナイダーが政治的迫害を受けているとき、米国に逃れる手助けをしたスキーヤーたちにも献辞を捧げている。



『The Hannes Schneider Ski Technique』
1938年刊
Rybizka Benno・著

この本は、分かりやすい解説をするために多用している連続写真と共に、夕焼け空を背に雪稜に立つスキーヤーの写真があるなど、技術だけに終始していない味わいがある。

加えて、クリスチャニアとかアブシュテンメンといった、昔を思い起こさせてくれる用語が出てくるのも、読んでいて楽しい。

さて、この本に出会ったのは1980年の春、米国レイクプラシッドを訪れたときのことである。レイクプラシッドはニューヨーク州の北部、カナダとの国境に近いアディロンダック地方にあるリゾート地だ。そこは、氷河期に形造



本屋の紙袋は地元ならではのデザイン

られた山々が緩やかに起伏し、麓には森と湖、そんな世界が広がる。レストランや運動具店の並ぶ村のメインストリートに、この本屋はあった。店の一角に古書や文具も置いている、そんな本屋だったと記憶している。イラストは、この本屋の紙袋で、自らの店が手前に大きく描かれ、背景にスケートリンクやジャンプ台の配されているところなど、2度のオリンピックが開かれた地元ならではのデザインだ。

過日、日本山岳会の歴史を築いてこられた方々にこの本を見ていただく機会があった。その折、これは貴重な本、とのお話があったので、図書室への寄贈を思い立つた次第である。

この本が、私の書棚からルムの書棚へ引越す、これは私にとって思いもかけなかった嬉しいできごとである。

ブナの美しい山——越後の川内山塊と菅名連山

樋口宗一

新潟県五泉市には、標高1000メートル前後の山が10座ある。

白山岳(1012メートル)、青里岳(2155メートル)、矢筈岳(1257・5メートル)、五剣谷岳(1188メートル)、銀太郎山(1112メートル)、銀次郎(1052メートル)、七郎平山(906メートル)、木六山(825メートル)、菅名岳(909メートル)、大蔵山(864メートル)などが、五泉市内の東側と南側に鎮座している。

いずれの山もブナの原生林が繁茂しており、古くから手付かずの自然を見ることが出来る。また、五泉の水源となる清水が至る所から湧き出ており、麓では自然水の恩恵を受けている。

ブナは落葉広葉樹林、夏は緑の葉をつけ、冬は落葉してしまうので、夏緑樹林とも呼ばれる。このブナ・コナラを中心とした森林は、かつて日本の山地の大部分を覆っていたという。冷温帯といわれる気候は、新緑・紅葉・冬枯れなど、四季の変化のはっきりとした森を



菅名岳の美しいブナ林

創造している。

特に、日本海側の山地は豪雪地帯であり、重ねて年間雨量が多い所で、ブナ・コナラ・トチノキなどが生い茂っている。ブナの木が20センチほどの丈に育つと灰白色の樹肌は美しく、5月に淡黄色の小花をつけるが目立たない。10月ごろから、蕎麦の種子に似た果実を落下させて地面に子孫を増やす。だが、毎年種子ができるとは限らない。

ブナの森は、山の中の重要な水瓶的存在である。数十年前の雨水が木から根に移り、土壌へ入り、その一部は五泉市内の地下水として湧き出て、夏は冷たい飲料水とし

て用いられている。山の中腹に湧き出る「どつばら清水」は、寒中酒作りに使われる。寒の入9日目に、「どつばら清水」を運ぶ一般登山者を募り、その登山者たちが水を背負って下り、五泉の銘酒「菅名岳」が誕生するのだ。

春・秋のブナを見ながらの登山は素晴らしい。

ここに、五泉駅から一番近くて、ブナ林の豪華な、大蔵山・菅名岳コースを紹介する(コースタイム…登り、菅名岳まで約3時間30分。下り、咲花温泉まで1時間30分)。磐越西線五泉駅で下車、タクシード大蔵山登山口「イズミの里」駐車場に入り(駅から約15分)、身じたくを整え、ここから登り始める。

五合目付近より、米俵ほどの太さのブナが登山道の左右に現れ、目を楽しませてくれる。大蔵山山頂からは、栗ヶ岳、守門岳、浅草岳などが望まれる。山頂より菅名岳方面の縦走路を歩く。菅名岳山頂に近づくにつれ、太いブナの林が現れる。この新緑は見事である。菅名岳山頂からは、近くに御神楽岳、遠方には磐梯山や飯豊連峰が望まれる。下山は、咲花温泉経由で下る。

途中、鳴沢峰(880メートル)より見下ろす蛇行して流れる阿賀野川は美しい。やがて咲花温泉に到着。温泉宿は10軒ほどあり、お湯は豊富で、泉質は硫酸ナトリウム、色はエメラルドグリーン。ここで入浴してから、JR磐越西線咲花駅に戻り、帰路へ。

次に、川内山塊へのルートを紹介しよう。五泉駅よりタクシード約30分、村松の栗山集落の奥にある五泉市市営の「チャレンジランド」で下車。ここには、風呂と宿泊施設が整っており、駐車場には整備されたテントサイトもある。

ここから川内山塊の山登りが始まる(コースタイム…駐車場より往復約14時間、途中、テントでの宿泊が必要となる)。現在の山道は五剣谷岳まで。越後特有の豪雪地帯のため、各沢筋の山肌は雪崩のためえぐられ、そのうえ岩はもろく、沢登りは困難だとされている。川内山塊は5つの峰から成り、山塊全体に小ぶりのブナばかりであるが、静かな山歩きを堪能できる。ブナ林の豪華な菅名連山とともに、ぜひ訪れてみてほしい。

私の1000山

前田英昭

日本登山界の巨頭であり、日本山岳会の十二代会長であった今西錦司氏は、もともと文化人類学の学者であるが、とかく「1500山登頂」と結びつけて語られる。京都一中に入学した13歳で京都の愛宕山(924メートル)に登って以来、85歳で神戸の高丸山(366メートル)まで、実に1552山を登っている。

ところで、彼は生涯を通じて万遍なくその数を登ったわけではない。彼が登頂数を意識したのは5000山目の66歳のときだから、ずいぶん遅い目覚めであった。それからはエンジンフル回転で、10000山目が76歳の大峰山系・釈迦ヶ岳(1800メートル)、15000山目が83歳の白鬚岳(1378メートル)という急テンポであった。しかも高齢をおして年間50山以上に新規登頂したのだから、驚異的というほかない。

そんな今西錦司氏のピークハッターぶりを知っていた私は、とても15000山などは無理でも、生きていくうちに10000山くらい

は登りたい、と漠然と思っていた。
では、68歳の自分はこれまでで
だけの山を登っているのだろう
……、数えてみた。

私は記録魔と言われるほどで、
登った山は綿密にノートに記録し
ていた。それで昨年末で950山
だったことが分かり、自分でも驚
いた。一つの山を何百回登っても
山としては一つとカウントしての
数字だ。

「これなら今年中に1000山目
に達するかもしれない」我がエン
ジンに拍車がかかった。「いやい
や今月中に達成するぞ！」と、オ
ーバーヒートするくらい全力で駆
け出した。そしてついに5月12日、
1000山登頂を達成した。

1000山目は長崎県の九千部
岳にした。この山にしたのはわ
けがある。1000と九千を足せ
ば1万になる。他愛ない数遊びだ
が、「1000のつもりが1万にな
ったぞ」と自分でも笑ってしま
った。

もちろん、今西錦司氏より8年
も早く1000山を達成した喜び
もある。

私の1000山には、「日本百
名山」「四国百名山」「都道府県

最高峰」の完登のほか、海外の山が
14山含まれている。キリマンジャ
ロ(5895^{メートル})、カラパタル(5
545^{メートル})、四姑娘山(5025^{メートル})、変わったところではミクロネ
シアのソケース山(推定300^{メートル})
というのもある。

できないことは歳のせいにして
しまう悪癖が、私にはある。

しかし先日、80歳の三浦雄一郎
氏がエヴェレスト登頂最高齢記録
を達成した。また、渡辺玉枝さん
の73歳での女性最高齢登頂も素晴
らしい。8000^{メートル}の山がどれほ
どきついか、6000^{メートル}に満たな
いキリマンジャロで苦闘しただけ
に、彼や彼女の不屈の精神は尊敬
に値する。

俗にピークハンターというが、
登らせていただいたピークを奪い
取るような尊大な言葉は、私には
抵抗がある。せめて集めて、眺め
て、楽しませてもらいたい。だか
ら私は、自分の山登りをピークコ
レクターと称している。

私のモットーは、晴登雨読。
「明日は晴れるか、さあ、次はどこ
に行こう？ よしつ、今西錦司氏の
歳まで生きて、次は1500山を
目指そう！」

支部



だより

北海道支部

オホーツク分水嶺踏査・ 知床岬到達！

北海道支部が進めているオホー
ツク分水嶺踏査は、4人の仲間を
雪崩事故で失い一時中断を余儀な
くされてから3シーズン目の4月

29日に、待望の知床岬に到達した。
北海道中央分水嶺の大雪山系・

三国山から分かれて東へ向かい、
350^{メートル}先の知床岬ヘリレー式に
歩き繋ぐもので、昨年末までに2
74^{キロ}を終え、今年は残りの76^{キロ}
の踏査を3月から開始。阿寒の原
生林の山稜や海別岳の広大な尾根、
東岳からルサ乗越への氷化した山
稜など、各隊が苦労しながら踏査
を進めた。知床岬を目指した隊も、

ウィーヌプリまで進んだ所で悪天
に阻まれて、7日間知床山中にい
て引き返したが、翌月に再度トラ
イして、呻吟の未知床岬に到達し

たのである。

しかし、同じときに目指した羅
白岳の踏査隊が悪天候に阻まれて
中止となったため、残念ながら踏
査完遂とはならず、フィナーレは
来春に持ち越しとなった。

今年のゴールデンウィークは、
低気圧が居座って厳冬並みの悪天
候が続くなかで、最難関と考えて
いた知床岬への踏査が行なわれた。
羅臼町相泊港から知床半島東海岸
を歩き出したのが4月27日であつ
た。根室海峡には漁船が浮かび、そ
の向こうに国後島が見えていた。
千潮の瀬をへつたり、高巻き、さ
らにペキン川をたどって3月に引
き返したウィーヌプリ手前の分水
嶺に上がった。

しかし、千島に停滞した低気圧
は吹雪となり、1^日もの降雪をも
たらした。1日停滞した後に弱ま
った風雪のなかを北上、新雪に覆
われたハイマツの海に苦勞し、強

全国各地の支部から、
それぞれの活動状況を、
北から南へとリポート
します。



知床岬で支部旗を掲げる

風煽られながら崩れやすい雪庇の尾根を慎重に進むと、稜線は次第に高度を下げて樹林帯に入った。雪も少なく福寿草が一面に咲いていたが、折からの降雪で花だけが雪面から顔を出していた。

また、林の中に突然のように鹿の防護柵が3メートルの高さで現れた。越えられないと思われたが、幸いに櫓のような梯子がありスノーシューのまま越えることができた。平らな樹林を進むと灯台に出た。目の前には灰色の海があり、階段を下りて台地に出て、雪で白く埋まった草原を岬に向かう。

ついに知床岬に立った！2013年4月29日午後2時50分であ

る。知床岬は強風と吹雪の世界であり、足元から切れ落ちる断崖下の岩礁に波が泡立ち狂い、暗いオホーツク海と冬枯れの草原は地の涯そのものであった。風に煽られながら支部旗を掲げて写真を撮り、なんの感慨もなく岬を後にした。この後、東海岸の岩壁をへつたり高巻き、玉石の海岸歩きに足を痛めながら5月1日、相泊に戻った。

後日、支部ルームで催した分水嶺スライド映写会では、阿寒周辺の原生林の樹海に続く山稜や知床山系の厳しくも素晴らしい映像に目を見張った。そして、多くの参加者がオホーツク分水嶺踏査に懸ける思いが語られて盛り上がり、最後に残された8・3キロを来春に完結する、との力強い想いと決意が示された。

(京極紘二)

北九州支部 念願の「ルーム開設」

北九州支部は本年5月1日より、北九州市小倉北区の毎日ビルディングの1階に、念願のルームをオープンいたしました。当日は、15時よりささやかなオープン祝賀会を開催、会員27名が集まりました。



念願のルームを開設、会員の「止まり木」を目指して

幸運にも「北九州と信州の会」が閉鎖した後の一室を借りることができ、さらに什器、備品などもそのまま使用できるとのことので、早速検討に入りました。家賃などの問題もありましたが、発起人のご厚意による寄付が集まり、なんとか開設にこぎつけました。

また、故人となられた重村伝平さん(日本山岳会北九州支部会員)の山の蔵書から約100冊の寄贈を受けて、今後は会員のための「山の図書室」としての利用も検討中。ルームの最低条件は、誰もが、いつでも、自由に利用できること、開設したルームを有効に活用すること。最大のポイントは、尾上会長

がおつしやる「止まり木」の機能が
できるかです。支部長は、「賃貸ではありますが、13年目にしてルームを持つことができ、日本山岳会5番目の開設になります。地域に密着した活動とルームをベースに会員同士の支部活動活性化を図ってほしい」と挨拶。

来賓は、北九州商工会議所、西日本新聞、毎日新聞、毎日会館から6名の方が随時参加されました。【ルーム概要】場所…北九州市小倉北区紺屋町13-1 毎日ビルディング1F、ルームの広さ…10・44坪。

(竹本正幸)



図書紹介

駒村吉重・著

『山靴の画文や
辻まことのこと』



2013年1月
山川出版社刊
四六判 288頁
定価 1890円

辻まことは、独特の味わいをもった文明批評や山をテーマとしたエッセー、イラスト、画文などで知られるが、人生の達人とも評され、多彩な逸話にまこととわれたその生きざまは、どこか社会的拘束から解放された自由な人間像に心惹かれる私たちの心情にうまく寄り添ってくれる魅力を持つ。著者は、そうした辻まことを一つの「意味」と捉え「自由」を軸にして、その内面世界を描き出そうとしている。

哲学者の矢内原伊作は「彼は自分で自分になったのだ。辻まこと

は辻まことの独創である」といったが、こうした物言いは、世間のしがらみを突き抜けた高邁なまことと像を作り上げてみせることで、それに対する憧れを掻き立てる役割を果たしてきたといつてよい。その事情を踏まえつつ、改めて著者は家族や友人、仕事の仲間など、かわりを持った人たちとそれに対応した社会情勢のもつれの中にまことを置き直しながら、そこに突きつけられた葛藤の状況を問いつつ直すことで、そこからまことの生き方の選択のありようを浮かび上げさせる。特に、これまでの評価では取り残されていたような人々からの証言、まことが自らを見つめる思いの言葉などにも眼を向けて、抱えていた「魂の苦痛」に触れ、おのれのふがいなさを自覚し、絶望ややり場のない怒りを隠し持っていた消息を伝えている。

ただ、まことは自由を蹂躪して

やまない社会の軌轢に対しては、父の潤がそうであったような狂気による救済を回避しつつ、巧みに摩擦をかわすことで「自前の小さな宇宙」の中で自由を再生しようとした。かつ「仕事」は自分らしく生きるための「道具」だったとして「辻まことの生きた残骸が絵となり文章となつて残った」といった理解を提示している。このあたりが著者らしい切り口だろう。まことにあつては「生き方と思想が一致していない」との見方も紹介されるが、それは、まこと自身の言った「名言」をまことその人に当てはめて、彼こそが「作品を削除してもなおあとに価値のある人間」であったと見なす「アカデミック」な評価に対する挑戦となつていともいえそうだ。

山だけが「ほんとうに正直になれるところ」だった事情についても、著者なりの視点で語り出そうとしている。従来の辻まこと像を描き替えようとする試みが意図されているのだろうが、けつして偶像破壊的な仕掛けではなく、正面からまことに向き合おうとする姿勢が明確であり、十分に読ませられる。

(飯田年穂)

『数岩魂』——ハイグレード・ハイキングの世界——

打田鏝一・著



2013年3月
山と溪谷社刊
A5変形判 272頁
定価 2310円

うわつ、楽しそうだ。表紙が眼に飛び込んできた瞬間の印象である。さらにページをめくると次から次へと笑顔のオンパレード。それにつられていつの間にかこちらも笑顔になつていく。読む前からわくわく感が盛り上がっている。

この本はガイドなんだろうか、紀行なんだろうか。そんなことはどうでもいい。ふんだんに使われているカラー写真を見ているだけで、数山の楽しさが紙背から伝わってくる。

最近ではカラー写真をたくさん盛り込んだガイドブックが書店の本棚に並んでいるが、そういったものとは全く違う。西上州をはじめとする数山のコースを詳しく紹介しているのに、そのコースを讀者に歩いてもらおうとはあまり考えていないように思える。その種明

かしは、あとがきにあった。

「日帰りの小さな山で大きな充実感に満たされる。そんな見本を集めたのがこの本だ。自分で探した山ならば満足感はあるかに高い。日本全国山だらけ。お近くにあなただけのハイグレード・ハイキングの世界がきつと見つかるはずだ。」

そう、本書はガイドでも紀行でもない。あえて言えば登山歩きという山行スタイルの楽しさを紹介する本なのだ。西上州や越後の藪山や岩山を通じて、読者にこんな手近な所にも楽しい山登りができる所がたくさんあるというメッセージを発信しているのだ。

人と会うことのない静かな藪山ちよつとしたスリルが味わえる小さな岩山は、私たちの周りを見渡せば至る所にある。しかし、日本百名山のように高く、展望が良く、かつこい山が良いという常識が邪魔をして、登山者は近くて、低くて、毛むくじやらの山には見向きもしない。でも、実は低山藪山歩きはとことん楽しいものなのだ。「岩山を背にした郷愁を誘う山村風景。歴史を刻む峠道。微かな踏み跡を拾い、藪を縫って、毛むくじやらの岩峰に立てば、胸のすく

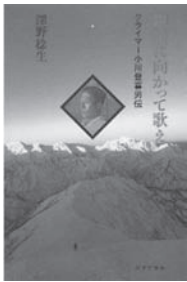
大展望。下って風呂に入れば岩や藪で負った無数の小傷がちくちくしみて、M的快感とともに生きている喜びが全身にくまなく広がっていく。」

著者は昭文社の山と高原地図「西上州」を執筆するなど、この地域の第一人者である。彼が紹介するコースは上州、越後を中心に40コース。とても一般向きとはいえないが、どれも山の楽しみに溢れた所ばかりである。

一つだけ難を言えば、紀行と写真のページのすぐ後にそのコースの情報と地図を入れてほしかったが、それは読んでいるうちにどうでもよくなってくる。なぜなら、藪山歩きはそんな便利さを捨てたところから始まるのだから。(近藤雅幸)

『銀嶺に向かつて歌え—— クライマー小川登喜男伝』

深野稔生・著



2013年3月
みすず書房刊 320頁
四六判 定価 2940円

1908年、浅草に生まれ、東北帝国大学山岳部と東京帝国大学

山岳部に入部して、穂高岳・屏風岩や谷川岳・一ノ倉沢などで数々の困難な初登攀を成し遂げ、41歳で結核を患い夭折した昭和初期の天才クライマー、小川登喜男の伝記が刊行された。

小川は登山に関する記録や著作をほとんど残さなかったため、筆者は小川が学生時代に書き残した山岳部の部誌や蔵王ヒュッテの日誌の書き込みなどから、丹念に生の言葉を集めた。

そして、岩登りのみならず、蔵王をはじめ船形山、吾妻連峰など東北地方の深山幽谷をスキーで踏破し、また、エリート学生として時にさまざまな懊悩を抱いた小川登喜男の一生を、この一冊に蘇らせた。

東北帝大山岳部の部誌に書き遺された言葉、「行為なくして山はない。情熱なくしては、いかなる偉大なことも起こりえない。山への情熱は、山に行くことのうちに純化されるだろう」に代表される山への溢れる想い、あるいは「自分はいつも朗らかな気持ちで山へ出かけることはできない。時として鉛のように重い憂鬱をルックの上に加えてさまよい出ることもある。

そしてまた、時としては輝かしい山の思い出を胸に秘めながらも、都会へ向かつて洗面をつくりながら帰ることもある」という虚無感、学生時代に同じような経験をしたことのある諸兄姉には、深い共感を持って受け入れられることであろう。

私が所属する東京吉祥寺の成蹊学園が谷川岳に建設した山小舎「虹芝寮」が、昨年80周年を迎えたこの「虹芝寮」に、旧制成蹊高校を卒業し東北帝大入学後に親交のあった成瀬君雄(後の日本山岳副会長)を通じて、竣工間もない虹芝寮を部外者として最初に訪れたという記録が残されており、私にとつての小川は、遠い憧れの存在でありながら親近感を覚えすにはいられないのである。

それにしても若いころの写真を見るにつけ、美男子ぶりで言えば、かのジョージ・マロリーもかくや、というほど端正かつ品のある顔立ちが印象的である。古き良き山の日々を偲びつつ、ページをめくる幸福なひとときをぜひ味わっていただきたい。

(熊崎和宏)

会務報告

平成25年度第2回(5月度)理事会
議事録

日時 平成25年5月15日(水)19時～

21時

場所 日本山岳会集会室

【出席者】尾上会長、吉永・西村各

副会長、高原・森・小林各

常務理事、野澤・中山・永

田・萩原・節田・川瀬・古

野各理事、平井監事

【欠席者】浜崎監事

【審議事項】

1・平成24年度事業報告(案)および収支決算報告(案)について(高原・小林)

別添資料により担当常務理事が説明し、詳細に検討された。

(承認)

2・平成25・26年度役員(案)等について(高原)

別添資料に示す役員案(4月度

に承認)を再確認。

(承認)

3・支部長の交代について(高原)

・北海道支部・新支部長 西山泰正(13345)、退任 滝本幸夫(5993)

・静岡支部・新支部長 大島康弘(9379)、退任 久保田保雄(6270)

・岐阜支部・新支部長 高木基揚(8016)、退任 早田道治(5626)

・福島支部・新支部長 小林正彦(12649)、退任 大谷司(9269)

4・大ネパール展(在日ネパール大使館主催)協賛について(高原)

協賛金5万円を支出する。

(承認)

5・グーグル(株)よりのグーグル・ストリートビュー「山」編の制作協力依頼について(高原)

無償ボランティアでの協力は困難。

(否決)

6・入会希望者について(高原)

19名の入会希望者があった。

(承認)

【報告事項】

1・監事監査が5月13日に実施された。特に指摘はなかった。(小林、高原)

2・支部長会議を6月15日(土)10時30分より当会ルームで開催する。(高原)

3・寄付金報告について(小林)

遭難した遺族から10万円の寄付があった。

4・群馬支部設立準備について(西村)

5月24日に設立準備会を開催し、夏に設立を予定。

5・平成25年度子どもゆめ基金への対応について(永田)

5月14日、関係者が打ち合わせを実施。今後は、理事会直轄で「子どもゆめ基金プロジェクトチーム」(リーダー永田)を発足、サイ「親子で楽しむ山登り」制作の会計や制作チームを管理する予定。

6・旅行業法に基づく「募集の手引き」について(高原)

別添に示す小冊子を、支部、委員会、同好会へ配信し、会員にはホームページに掲載し、メルマガ

で告知した。

7・賠償責任保険加入を継続した(高原)

8・YOUTH CLUBの活動について(森)

3年間で39歳以下の会員が倍増し、59歳以下の新入会員も増加している。

9・4月27日に山研の開所作業を行ない、補修すべき箇所などが確認された。(森)

10・日本山岳ガイド協会から公開講座「百万人の山と自然安全のための知識と技術講座」の名義後援の依頼があり、了承した(高原)

11・非会員から、自費出版制作にあたり、『山岳』の表紙の掲載許可願があり、了承した。(高原)
 12・樫出版発行予定の『白馬ブック』に、『山岳』の表紙および写真の掲載許可願があり、了承した。(高原)
 13・4月14日、第1回小島烏水祭が四国支部で開催され、関係者約120人が参列して、成功裏に終わった。(高原)
 14・宮崎支部より、同支部員が4月20日玄武山で滑落(死亡)した事故の書面報告があった。(高原)
 15・国土地理院の生楽地名情報課長、小澤課長補佐が来室し、今後の協力事項などを確認した。(吉永)
 16・松原都民の森管理事務所より、同園の「冒険の森」長期閉鎖について連絡があった。(高原)
 17・残雪期の至仏山登山道閉鎖について、尾瀬保護財団から連絡があった。(高原)
 18・会報『山』5月号について。(節田)
 小島烏水祭の記事などの紹介があった。
 19・メトロ会に、日中韓三国学生交流登山に対して寄付を依頼する。

(吉永)
 20・5月18日、海外委員会で行なう「海外交流登山——富士山」には米口の2名が参加の予定。(川瀬)

【今後の予定】

1・6月1日(土)〜2日(日)、第67回ウエストン祭開催(尾上会長出席)
 2・5月14日(火)、日本山岳ガイド協会の懇親会を開催(西村副会長出席)
 3・6月2日(日)「山の日をつくろう!」栃木集会開催(萩原出席)
 4・5月20日(月)、加賀市長来室
 5・5月28日(火)第2回梅棹忠夫・山と探検文学賞授賞式(中村保氏)(長野市)
 6・昨秋発売したカシオ腕時計を5月20日より発送する。
 7・6月27日(木)「山はみんなの宝」憲章」制定発表大会
 8・5月28日(火)「山の自然と文化を語る会」セミナー開催
 9・7月6日(土)〜7日(日)自然保護全国集会(於立山)自然保護委員会、富山支部
 10・6月2日(日)第56回針ノ木岳慎太郎祭

ルーム日誌 4月

1日 集会委員会 YOUTH CLUB 財務委員会
 7日 図書委員会 スケッチクラブ
 8日 休山会 高尾の森づくりの会 山想倶楽部
 9日 フォトビデオクラブ 集会委員会 海外委員会
 10日 山岳地理クラブ 九五会
 13日 常務理事会 スキークラブ
 14日 YOUTH CLUB 山岳研究所運営委員会 スケッチクラブ
 15日 理事会 青年部 つくも会
 16日 緑爽会 科学委員会 みちのり山の会
 18日 山の自然学研究会
 20日 総務委員会 資料映像委員会
 21日 「山の日」制定PT 00会 スキークラブ
 22日 自然保護委員会 三水会 麗山会
 23日 学生部 子供ゆめ基金 山遊会
 24日 緑爽会 公益法人運営委員会
 27日 フォトビデオクラブ YOUTH CLUB

会員異動(5月分)

物故

朝比奈英三(2071) 13・5・26
 平野 明(5368) 13・5・28
 北村 猛(7216) 13・5・6

28日 UTH CLUB
 二火会 YOUTH CLUB

29日 フォトビデオクラブ 支部
 活性化PT スキークラブ

30日 総務委員会 子供ゆめ基金
 海外委員会 5月来室者 507名

篠崎純一(10884)13・5・8
 中嶋嶺雄(12833)13・2・
 向野暢彦(13328)13・5・
 米谷陽作(15257)13・5・
 退会 18 19 14 8

安井 豊(7275)岩手

渡辺 勝(7387)宮城

遠藤昭治(7457)宮城

光安 巖(8401)福岡

横山 隆(9083)

酒井耕三(10377)東海

牧野良三(10766)

岩本芳雄(12006)埼玉

山岸信夫(12138)

江川武夫(12293)

谷口ウメ(13027)宮崎

舩田昭夫(13228)

川村トシ子(13347)

浜田正敏(13779)

池田憲義(14106)東海

梅澤佳子(14107)

村尾保義(14269)宮崎

村尾恵子(14270)宮崎

宮本佳代子(14403)

細井利真(14471)

田中洋子(14698)

谷上道夫(14855)山陰

志摩喬之(14899)福井

栗津 隆(14958)京都・滋賀

日本山岳会団体傷害保険 加入のすすめ

加入対象者(被保険者): 日本山岳会会員の皆様
 会員の方がご加入の場合、配偶者、お子様、ご両親、
 ご兄弟、会員ご本人の同居の親族及び同居の使用人
 の方も同時にご加入いただけます。

中途加入可能です。まずは、資料請求下さい!

海外登山の保険、その他損害保険・生命保険全般ご相談も承ります。

資料請求先

東京海上日動火災
 グループ代理店 株式会社東海日動パートナーズ東東京
 団体傷害保険資料請求担当: 藤田 Mail:a.fujita@tnp-higashitokyo.co.jp
 TEL.0120-161-808 FAX.0120-161-809



◆第31回図書交換会の出品図書募集について

年次晩餐会の会場での開催が好評だった昨年に続き、本年の図書交換会も年次晩餐会の会場で開催する予定です。本棚に眠っている山岳書をお寄せください。会場で希望者に頒布します。

出品図書は7月末日までに、氏名、会員番号を明記して「日本山岳会・図書委員会」宛にお送りください。原則として頒布価格は図書委員会に一任させていただきますが、頒布が成立した場合は、価格の80%を出品者にお返しします。雑誌類は原則としてお断わりします。多くの出品本をお寄せくださるようご協力をお願いいたします。問合 三好まき子

TEL 090(8019)8601
✉ 344mm@mbe.nifty.com

◆「第1回夏山フェスタ」を名古屋

で開催 東海支部

名古屋で初めての山岳総合イベント「第1回夏山フェスタ」を開催。「山の日」制定に向けて、幅広い登山愛好家に山の恵みや安全登山などについて考えてもらうのがねらいです。山での病氣とケガ、遭難事故の報告、野口健のトークショーなど各種セミナーを2日間にあわせて開催するほか、メーカーや自治体がブース出展。東海支部も相談コーナーを開設します。

◆「第6回山の博覧会」のお知らせ

「第9回山の博覧会」山を知ろう

山へ行こう」『富士山特集』を開催します。「山の博覧会」は山梨県の「やまなし山の日」および「第28回国民文化祭・やまなし2013」、さらに山岳5団体が推進する「山の日制定プロジェクト」関連事業です。

日時 6月29日(土)10時～15時20分
会場 山梨学院メモリアルホール
入場 無料

■富士山をテーマにした講演..
①「富士山の明治維新」高村陽二郎(山梨県山岳連盟名誉会長、日本山岳会会員)、

旭ヶ岳山荘 グループ創業95周年記念

「穂苅家三代」写真展

2013年7月5日(金)～15日(月)
10時～19時 (7月6日(土)のみ10時～16時)

穂苅貞雄の作品を中心に、初代三寿雄と康治の作品を展示

ヒルトピア アートスクエア
[東海地区西側事務所] 旭ヶ岳山荘グループ
[新館] 旭ヶ岳山荘グループ 旭ヶ岳山荘グループ

※入場:無料
※主催:旭ヶ岳山荘グループ
※協力:山岳と道谷社
※問合せ:旭ヶ岳山荘事務所 ☎ 0263-35-7200

旭ヶ岳山荘 グループ創業95周年記念映画会

2013年7月3日(水)
18時～21時 (開場17時45分)

「通かりなけむり」(山岳映画家・伊藤八八作品)
「穂ヶ岳山荘180周年記念 穂は輝く空にある」
(新館・白井久夫作品)
「穂ヶ岳山荘 穂は輝く空にある」
(フカモトプロ・穂本穂治郎作品)

旭ヶ岳山荘 グループ創業95周年記念映画会

2013年7月3日(水)
18時～21時 (開場17時45分)

「通かりなけむり」(山岳映画家・伊藤八八作品)
「穂ヶ岳山荘180周年記念 穂は輝く空にある」
(新館・白井久夫作品)
「穂ヶ岳山荘 穂は輝く空にある」
(フカモトプロ・穂本穂治郎作品)

旭ヶ岳山荘 グループ創業95周年記念映画会

2013年7月3日(水)
18時～21時 (開場17時45分)

「通かりなけむり」(山岳映画家・伊藤八八作品)
「穂ヶ岳山荘180周年記念 穂は輝く空にある」
(新館・白井久夫作品)
「穂ヶ岳山荘 穂は輝く空にある」
(フカモトプロ・穂本穂治郎作品)

旭ヶ岳山荘 グループ創業95周年記念映画会

2013年7月3日(水)
18時～21時 (開場17時45分)

「通かりなけむり」(山岳映画家・伊藤八八作品)
「穂ヶ岳山荘180周年記念 穂は輝く空にある」
(新館・白井久夫作品)
「穂ヶ岳山荘 穂は輝く空にある」
(フカモトプロ・穂本穂治郎作品)

旭ヶ岳山荘 グループ創業95周年記念映画会

2013年7月3日(水)
18時～21時 (開場17時45分)

◆南アルプス荒川岳・赤石岳縦走

集委会

南アルプスの中央部の荒川三山から赤石岳へと縦走する。1日の行程7～10時間。

日程 9月27日(金)～30日(月)
集合 27日15時 畑薙第一ダム
解散 30日15時 畑薙第一ダム
費用 3万円(入下山費用含まず)
定員 12名

申込 7月20日迄に、菊池武昭
TEL & FAX 03(3991)3611
✉ takeaki.kiku@hb.tpl.jp

*申込者に詳細案内を送ります。

◆上高地インタープリテーション

山の自然学研究会

今年で開催20周年になります。

期間 8月1日(木)～16日(金)

・ガイドウォークと自然解説(上高

第2回電子国土賞の推薦に関して

国土地理院が制定した電子国土賞に関しては、昨年の第1回の経緯を会報809号(2012年10月号)に記載しています。第2回の今年についても、当会が推薦団体の一つになっています。会員・非会員を問わず、推薦を希望される方は7月末までにメールで申し込んでください(申し込み先: jac-room@jac.or.jp)。

推薦の可否については、有識者の意見を基に理事会で決定します。なお、本件の詳細については、以下のホームページを参照下さい。

<http://psgsv2.gsi.go.jp/koukyou/G-award/index.html>
(理事会)

◆第29回全国支部懇談会への誘い(再掲載)

静岡支部

4月号ですでお知らせしましたが、プログラムの詳細が決まりましたのでご案内します。

日時 10月20日(日)～21日(月)

地・明神方面除1日)
・ミニトーク(温泉ホテルなどのロビーで開催…19時30分より、除16日)
・子供スケッチ会(2日～5日開催。西糸屋山荘前10時より)
問合・申込 坂田恒衛
✉ tsakata@eurs.co.jp

会場 ホテル アソシア静岡(静岡駅北口)

日程 ■ 20日・記念行事Ⅱ受付13時

・講演会Ⅱ 15時～17時「日本山岳会の今昔」…長田義則

「富士山のスラッシュ雪崩」…安間荘(記念山行Aコースで雪崩痕を確認します)

・懇親会Ⅱ 18時

■ 21日・記念山行…A富士山のスラッシュ雪崩痕と側火

(3時間半)富士宮5合目から御殿場口へ 静岡駅15時10分

B富士山の自然林逍遙と側火山見学(2時間)富士スカイライン高鉢より西臼塚へ 静岡

駅14時10分、C日本平と久能山東照宮(国宝)散策(1時間)

日本平運動公園より久能山東照宮へ 静岡駅14時20分

費用 2万円

定員 250名

締切 6月30日

申込 ハガキまたはメール。希望コースを明記し、有元利通

〒420-0871 静岡市葵区昭府2-26-9
✉ fuji-ari@nifty.com

詳細 支部ホームページ参照、または静岡支部へ照会ください

*申込者に詳細案内を送ります。

図書受入報告(2013年5月)

編著者	書名	ページ/サイズ	発行元	刊行年	寄贈/購入別
ライチョウ会議(編)	第12回ライチョウ会議長野大会報告書:2011年7月23日-24日	146p/30cm	ライチョウ会議	2012	発行者寄贈
植村記念財団(編)	植村直己とは何だったのか 記録集:植村冒険館20周年記念講演会	39p/30cm	植村記念財団	2013	発行者寄贈
英国山岳会・他(編) 池田常道(監修)	世界の山岳大百科:Mountaineers - Great Tales of Bravery and Conquest	360p/30cm	山と溪谷社	2013	出版社寄贈
駒村吉重	山靴の画文や 辻まことのこ	286p/20cm	山川出版社	2013	出版社寄贈
渡辺隆(編著)	山の履歴簿 山と人との関わり:第1巻 北海道南西部	456p/21cm	北海道出版企画センター	2013	高澤光雄氏寄贈
平野裕也(編)	「登山を楽しくする科学(Ⅳ)」フォーラム:2012年3月10日(土)	16p/30cm	J A C 科学委員会	2012	発行者寄贈
山端謙一郎	わが心のふるさと南アルプス:45年のふみあと	231p/20cm	山端謙一郎(私家版)	2013	山本良三氏寄贈
高澤光雄(編著)	高澤光雄著作選集:北海道の登山史を解く(文献探案人叢書 No.15)	150p/26cm	金沢文園閣	2013	著者寄贈
日本山岳ガイド協会	講座 登山<基礎>:安全のための知識と技術	87p/25cm	日本山岳ガイド協会	2013	発行者寄贈
石原裕一郎(編著)	東京の里山100選:初級・中級 山歩きガイド	197p/21cm	本の泉社	2013	著者寄贈
信州大山岳科学総研(編)	(山岳科学ブックレット No.1) 登山道の安全を考える	95p/21cm	信州大山岳科学総研	2009	発行者寄贈
鈴木啓助	(山岳科学ブックレット No.2) 雪と氷の世界から届いた地球温暖化の話	86p/21cm	信州大山岳科学総研	2009	発行者寄贈
信州大山岳科学総研・他(編)	(山岳科学ブックレット No.3) 山と自然に魅せられて	109p/21cm	信州大山岳科学総研	2009	発行者寄贈
信州大山岳科学総研(編)	(山岳科学ブックレット No.4) 人は山を目指す	53p/21cm	信州大山岳科学総研	2010	発行者寄贈
高橋修平・他(編)	(山岳科学ブックレット No.5) 山岳と極地から見た地球の今	85p/21cm	信州大山岳科学総研	2010	発行者寄贈
信州大山岳科学総研・他(編)	(山岳科学ブックレット No.6) 山・ひと・自然	147p/21cm	信州大山岳科学総研	2010	発行者寄贈
中村 寛志・他(編)	(山岳科学ブックレット No.7) 蝶からのメッセージ	147p/21cm	信州大山岳科学総研	2011	発行者寄贈
信州大山岳科学総研・他(編)	(山岳科学ブックレット No.8) ツキノワグマの生態学	82p/21cm	信州大山岳科学総研	2011	発行者寄贈
中村寛志・他(編)	(山岳科学ブックレット No.9) 山に登った虫たち	121p/21cm	信州大山岳科学総研	2012	発行者寄贈
Rybizka, Benno	The Hannes Schneider Ski Technique	109p/24cm	Harcourt Brace	1938	夏原寿一氏寄贈

日本山岳会所蔵資料紹介 No.3

〔資産番号〕 00360

〔資料名〕 横 有恒愛用、初代シェンクのピッケル

〔部門名〕 登攀用具

〔寄贈者〕 今西寿雄

〔受入日〕 1985年8月14日



ブレードは平刃で三角形



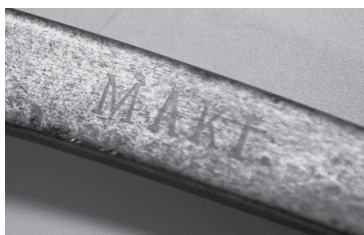
美しいカーブ



「頭抜(ずぬ)き」



「シェンク」の銘



「MAKI」の文字



補強・修理のあと

横有恒が所蔵・愛用した「シェンク」のピッケルである。刻まれたシェンクの銘、ヘッドの美しいカーブ、三角形の平刃のブレード、鋭く尖った細身のピック先端などから、初代クリスチャン・シェンク (Christian Schenk, 1861~1926) が晩年に鍛えたものと思われる。

横は1921年、アイガー東山稜初登攀を果たして帰国。そのとき、スイスから持ち帰った「シェンク」を日本に初めて紹介した。横はほかに3本のシェンクを所有していたといわれ、そのうちの1本が今西寿雄に贈呈され、今西から日本山岳会に寄贈された。

シャフト部分は木製で長さ80センチ、ピックからブレードまでは30センチほど。ヘッドの片面に「シェンク」の銘が、もう片面には「MAKI」と刻まれている。石突きより上5センチほどの部分に銅線を巻きつけて補強・修理の跡があり、大切に使用していた様子がうかがわれる。

なお、日本山岳会ホームページ→委員会活動→資料映像委員会→所蔵資料紹介へとアクセスすると、「会報ページそのもの」を拡大して見るができます。活用ください。また、公開資料に関する情報・ご意見・ご教示など、次までお寄せください。 ☒ jacshiryō102@jac.or.jp

日本山岳会会報 山 817号

2013年(平成25年)6月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 尾上 昇
編集人 柏 澄子
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社

彼女の気持ちのよう。(柏 澄子)

◆編集後記◆
●先月、濟州島のロングトレイル(のぐく一部)を歩いてきた。風の強い濟州島では、家を石垣で囲っており、石垣沿いに隣の家へと続く小路をオルレという。海岸線を一周するこのトレイルの名もオルレ。島出身の女性が大学進学でソウルへ渡り、その後50歳までキャリアを積み重ねたものの、行き詰まりのようなものを感じて仕事を辞め、旅先で出会ったのが、スペインのサンディエゴ巡礼の道。この時故郷にも美しい自然景観があったと気づき、トレイル整備に乗り出す。トレイルの標識は、島にいる小型の馬カンセがモチーフになっている。カンセには、「怠け者」という意味もあり、オルレをゆつくり歩いて味わってね、という